

内 容	意見者	資料2での 反映状況
人口減少社会を見据えた多様な担い手・労働力確保について		
＜新規就業時の支援＞		
新規就農で資金が少ない場合、「移住就農まるごと支援事業」や「就農給付金」は必要な制度。来年度以降も制度を継続してほしい。	舘岡委員	1－②
＜研修生の受入環境の整備＞		
研修生が定着するためには、研修生を受け入れる側の環境整備も重要であるため、受入にあたっての事前準備や体制整備のためのマニュアルが欲しい。	今野部会長	1－③ 3－①
技術習得研修において研修先の農家を決める場合、研修生の希望とうまくマッチングできない場合があるため、希望する研修ができるよう体制強化してほしい。	舘岡委員	1－③
研修生の定着を図るためにも、農業に魅力が感じられるよう研修時期や作業内容など、工夫することが重要である。	今野部会長 舘岡委員	1－② 1－③ 3－①
＜経営者の育成＞		
魅力ある農業法人になるためには、雇用者を育成していく上で、給与体系や評価基準を設定するなど、一般の会社のような経営をしていく必要がある。	今野部会長	1－① 3－①
やりがいを感じられる会社経営はもちろん、人を育てる技術も身につけていく必要がある。	今野部会長	1－①
漁業は、自分で経営し、船を操縦して魚を獲るという「親方」「船長」となることに魅力を感じやすい。	佐々木委員	1－②
＜担い手・労働力の確保＞		
林業の業界全体としては、労働力が不足しているが、秋田市近郊は、若い人が多いことや、機械化を進めていることが要因となって、採用の応募が多く、労働力は充足している。	佐藤委員	1－②
林業大学校からのインターンシップがあり、そのまま就職するルートも確立している。	佐藤委員	1－③
漁業の場合、労働力の確保というより、経営者として引き継ぐことの方が大切である。現在、60歳代後半から70歳代が多く、今後船を手放して辞める人が多くなるため、若い人がこの世代から技術伝承を受けて船長になれば、おもしろいと思う。	佐々木委員	1－②
船の価格が高いため、これから辞める人の船でまだ使用できるものは、有効活用すれば良いと思う。	佐々木委員	1－②

内 容	意見者	資料2での 反映状況
ICT等の先端技術の活用について		
＜ICT等の先端技術の活用＞		
パワーアシストスーツなどの新しい技術は、最初とっつきにくいイメージがあったが、使用してみると思ったより良いと感じたので、積極的に取り入れたい。	今野部会長	2－② 2－③
G P S 田植機は運転中の作業が軽減されるなど、効率が良さそうであった。また、密苗技術に取り組んでいるが、従来の田植えに比べて作業時間が大幅に削減された。今後も様々なものを試しながら、良いものを取り入れていきたい。	今野部会長	2－②
秋田県の漁業では、専門的な知識を持った人でなければ、I C Tの活用は難しいのではないかと。	佐々木委員	2－③
林業においては、I C T活用による業務の合理化・効率化を図るため、供給側と需要側のマッチングや、資料のデータベース管理ができるシステムの開発を進めている。	佐藤委員	2－④